

令和4年度 自己評価書

学校園名 附属特別支援学校

1 学校経営計画
別紙のとおり。

2 自己評価

領 域	重点目標・具体的取組	達成状況・成果と課題	評価	今後の改善方策	学校関係者評価を踏まえた今後の改善方策
学校運営	<p>◎新型コロナウイルス感染症について、必要な対応策を適宜実施する。</p> <p>◎東久留米地区の特色化に向けた検討を行う（生涯発達支援学校）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、感染予防を徹底した上で、その時の感染状況を考慮して人数制限を実施するなどして、可能な限りコロナ禍前の活動を行うことを基本とした。 ・学習内容について プール指導は各部が重ならないようにスケジュールを調整して実施した。夏季休業中のプール開放は中止した。調理実習は、高等部に関しては簡単な調理から再開した。宿泊を伴う行事については、感染予防対策をして実施した。各部の校外学習も、感染予防対策をして実施した。 ・学校行事について 始業式・入学式(4月)、春のレクリエーション大会(5月)、音楽教室(9月)、ニューイヤークンサート(1月)、学習発表会(2月)、卒業式(3月予定)は、感染状況を考慮して、参加者を制限して実施した。各学部の行事は、3密を避けるかたちで各部が工夫して実施した。 ・ICTの活用等について 休校や時差通学を行わなかったため、リモート学習での利用は行わなかった。 ・今年度から、国立大学の第4期中期目標・中期計画（令和4～令和9）が始まっ 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後新型コロナウイルスが5類へ移行するに伴い、基本的感染対策を行いながら、学習内容や行事を従来のやり方に戻していく。 ・「生涯発達支援学校」について具体的な計画を検討して 	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いの徹底については今後も継続して指導していく。

	<p>◎現在の大学（特別支援科学講座、教職大学院、特別支援教育・教育臨床サポートセンターを中心に）との連携を維持、強化する。連携会議を開催し、協力関係を強化する。</p> <p>◎校務分掌業務のマニュアル化を推進し、今年度中にマニュアルの完成を目指す。</p> <p>◎校務分掌に関する文書や各部内の文書の整理を行い、スムーズに業務が行えるよう工夫する。</p>	<p>た。その中で附属学校には、更なる大学教員との連携や、特色ある教育研究の実施状況や成果を毎年度まとめ・公表することが挙げられた。本校は一昨年度から研究で取り上げている「生涯発達支援学校」に関して取り組むこととした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の将来的課題を共有するため、本学特別支援科学講座、特別支援教育・教育臨床サポートセンター教員と「三者の会連絡調整会議」を実施し、意見交換を行った(今年度1回、7/6)。今年度もリモートで開催し、大学から9名の教員が参加できた。 ・授業研究会等に共同研究者として東京学芸大学の特別支援科学講座、同特別支援教育・教育臨床サポートセンターの大学教員に参加・指導していただき、日常的に情報交換を行った。各学部で2～3人の大学教員に協力いただいた。協議会当日は助言者として参加していただいた。 ・一昨年度作成した各校務分掌の業務マニュアルのひな形をもとに、各分掌での作成を依頼するにとどまった。 ・各会議をできる限りリモートや書面会議での実施を推奨した。教員会議も昨年同様にリモートで実施した。それにより全体的な会議の回数を減らせ、一部教員負担の軽減や印刷物も減少させることができた。朝会も各部主事と数人の参加にとどめた。またその他の連絡事項も、緊急連絡システムやリモート会議システム等を活用することでスムーズに行うことができるようになった。 		<p>いく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記計画について大学教員とも連携をとっていく。 ・各校務分掌の年間計画に、マニュアル作成を盛り込む。 ・教員会のリモート実施は継続する。 ・各種文書のデジタル化を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革からも業務マニュアルの作成及び業務の効率化は進めていく。
--	---	--	--	---	--

	<p>◎災害発生時の対応マニュアルを整備する。</p> <p>◎教職員の災害対応訓練について検討する。</p> <p>◎ホームページを充実させ、情報発信力を強化する。</p> <p>◎学校公開の開催方法等を検討する。</p>	<p>・災害発生時の対応マニュアルの項だてを考えた。内容については今後整備する。</p> <p>・不審者対応訓練・消火訓練・救命救急訓練を実施した。</p> <p>・ホームページ内に学校・各学部のトピックを掲載するページをつくり、週に1回のペースで更新している</p> <p>・受験希望者に限定した入学説明会を4回土曜日に実施した。また6月の説明会は教育関係者を対象として実施した。</p>		<p>・災害発生時のマニュアルを整備する。</p> <p>・情報発信力を高めるため、ホームページを改訂するとともに、研究内容の発信について検討していく。</p>	<p>・ホームページの改訂を行う。</p>
教育活動	<p>◎4学部の年間指導計画の構成と形式をそろえる。</p> <p>◎教材共有フォルダの整理を行い、使いやすい環境作りを目指す。</p>	<p>・4学部の年間指導計画を元に、「本校の教育」として現教育課程を冊子にすることができた。課題であった内容的な構成についても今年度形式を合わせることができた。</p> <p>・教材共有フォルダに関しては、各学部内での教材の蓄積がされてきているものの、共有フォルダに入っていないことも多くある。今後、さらに使いやすいシステムや構成などを検討することが必要である。</p>	B	<p>・教員への周知とシステムの再検討を行う。</p>	
研究活動	<p>◎校内研究の充実のための教員研修会を実施する。</p> <p>◎特別開発研究プロジェクトへの応募を増やす。</p>	<p>・研究部主導で、夏季休業中に4回実施した。テーマは、「生涯発達支援学校」「進路」「ICT」「道徳」であった。</p> <p>・新規の特別開発研究プロジェクトへの応募はなかった。</p>	B	<p>・教員へ周知する。</p>	

<p>学生の教育・支援活動</p>	<p>◎教育実習のシステムや内容等について検討し、大学と協議する。</p> <p>◎教育実習日誌のeポートフォリオ化をすすめる。</p>	<p>・今年度の教育実習も感染予防を対策で活動の制限を行った。そのため大学とシステムや内容について十分な検討を行うことができなかった。</p> <p>・大学全附属学校を対象に教育実習のeポートフォリオ化を実施した。</p>	<p>B</p>	<p>・C類学生の実習内容についての大学との協議を検討する。</p>	
<p>社会貢献活動</p>	<p>◎地域の関係者を対象とした研修会を開催する（2回）。</p> <p>◎現場実習、在校生の就労、卒業生の就労・生活支援に関し、地域の関係機関と連携する。</p>	<p>・研修会については、今年度は2回（ネットフォーラム、幼稚部公開講座）実施した。</p> <p>・感染症の影響がある中でも現場実習等で、多くの地域の関係機関の協力を得ることができた。</p>	<p>A</p>	<p>・中止していた若竹会の活動や夕涼み会は再開していく。</p>	

3 その他特記事項 なし

4 自己評価委員会委員、開催日

委員長 藤野 博

副委員長 湯山 孝司

委員 井上 剛 委員 柴田 琢磨

委員 沼澤 聡子 委員 小島 啓治

委員 中村 昌宏 委員 廣島 幸子

開催日 令和5年2月25日、令和5年3月20日